

実績報告書

令和 2年 3月31日

団体名 綾部市災害ボランティアセンター

事業の目的	綾部市地域防災計画に規定する「災害ボランティアセンター」を常設し、平常時から研修や訓練などを通じ参画団体の連携や活動体制の整備を進め、被災者の早期生活復旧を支援することを目的とする。
事業の名称	綾部市災害ボランティアセンター事業
事業費 (市補助金)	<u>600,068円</u> (100,000円)
補助金の使途	綾部市災害ボランティアセンターが主催する、研修会等の経費及び災害時の活動に必要な資機材の整備
事業実施期日	平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日
事業実施場所	綾部市内一円
事業の概要 (事業の実施方法、内容について記入してください。)	<p>1) 災害ボランティア活動の情報交換及び調査・研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・綾部市災害ボランティアセンター運営委員会の開催 (5/28、7/16、9/24、11/15、1/30)</li> </ul> <p>2) 研修会や講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ講座(5/28:京都DWAT、7/16:災害ボランティアセンター運営訓練、9/24:ドローン訓練、11/15:台風19号災害支援報告)</li> <li>・啓発活動(6/16:東八田福祉懇談会による福祉のまちづくり勉強会、8/20:綾部会館ほっとサロン、8/27京都府立医大地域医療教育推進事業)</li> </ul> <p>3) 台風19号にかかる京都府災害ボランティアセンターのサポート募金の呼びかけ 49,085円を寄付</p> <p>4) 市外災害ボランティア組織との連携及び協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府災害ボランティアセンター、災害時連携NPO等ネットワークへの加盟</li> </ul> <p>5) 資機材の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピプス400着、バックパネル、簡易土のう製造機12個等</li> </ul>

補助金の効果（成果）

（計画書では期待できる効果を、実績書では得られた成果を記入してください。）

1. 運営委員会を定期的に行うことで、団体・機関間の連携が継続的に進んだ。
2. 平成30年7月豪雨時の災害ボランティアセンター運営を行ってきた教訓を、災害ボランティア運営マニュアルの見直しにつなげ、また運営訓練を行い検証することができた。
3. 災害支援にかかる資機材として、共同募金の助成を受けピプス400着を設置することができた。他にもメディア向け対応のバックパネルなど、実践を振り返り必要な資機材を予算の範囲内で設置できた。
4. 市民団体等から災害に関わって研修協力依頼があり、災害ボランティアセンターの実際や、避難の大切さ、避難所運営に関してゲームを通じての研修など行い、災害を風化させない取組に協力できた。

様式第4号（第3条及び第7条関係）

収支計算書

令和2年3月13日

団体名 綾部市災害ボランティアセンター

(単位 円)

	区分	予算額	収入済額	明細
	収入の部	繰越金	5,066	5,066
補助金		450,000	550,000	綾部市100,000円、綾部市社協100,000円、京都府災害ボラセン100,000円、京都府共同募金会250,000円
寄付金		0	49,085	サポート募金
雑収入		1,000	1	利息
合計		456,066	604,152	
	区分	予算額	支出済額	明細
	支出の部	賃借料	15,000	11,900
謝金		10,000	5,000	講師謝礼
旅費		15,000	9,580	研修旅費
印刷費		10,000	5,000	資料印刷
備品費		400,000	500,165	資器材購入費（ビブス400着、バックパネル、簡易土のう製造機他）
事務費		5,066	17,082	消耗品費14,445円 会議費2,637円
役務費		1,000	2,256	手数料1,744円 送料512円
寄付金		0	49,085	サポート募金へ
合計		456,066	600,068	
差引	0	4,084	次年度へ繰越	